

学校保健

平成11年9月1日

No. 228

(財)日本学校保健会ホームページアドレス
<http://www.hokenkai.or.jp/>

JAPANESE SOCIETY
OF
SCHOOL HEALTH

(財)日本学校保健会

就任にあたって

(財)日本学校保健会 副会長 竹内輝博



去る5月の評議員において、副会長をお受けすることになりました。
 今後とも学校保健の推進に全力で取り組む決意でございます。

21世紀を迎え、社会生活環境は急激に変化してきておりますが、性の
 逸脱行動、薬物乱用などの現代的課題が非常に深刻化してきております。

こうした問題の解決には従来にも増して正しい知識の普及、健康教育
 の充実を図らなければなりません。

また、小・中・高等学校の学習指導要領が改訂されましたが、学校保健に携わる皆様方のご協力のもとに、特別非常勤講師制度などを活用して、健康教育等の一層の推進を図ることも大切であると思いま
 す。

一方、21世紀には、地球環境問題など人類の生存基盤を脅かす問題が、さらにクローズアップされる
 ことが予想されますが、環境問題に対応するためには、今後、
 社会全体を環境への負荷の少ない持続的発展が可能なものに変
 えていくことが求められます。

このような視点が教育現場においても重視され、学校におけ
 る環境教育の一層の充実が図られることが重要であり、こうし
 た環境教育に日本学校保健会が作成しているホームページを利
 用していただければ幸いですと考えております。

今後、皆様方の叡智を結集して、次代を担う児童生徒の健康
 づくりに努力してまいります。

皆様方のご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

目 次

就任にあたって	…1
二つの新規センター事業の概要	…2
平成11年度全国養護教諭 研究大会	…3
第50回十三大都市 学校保健協議会	…4
平成11年度保健主事 研究協議会	…5
北から南から	…6
推薦一覧表	…7

会報をよくするため、読者のご意見を求めています。お葉書をお寄せください。

乞御回覧

校 長	教 頭	保健主事	養護教諭		P T A	会 長	副会長	

二つの新規センター事業の概要

日本学校保健会 専務理事 本 吉 鼎 三

平成11年度、新規に文部省から本会に、「薬物乱用防止」「内分泌かく乱物質情報提供」の2つの事業が委託された。

第一の「薬物乱用防止」に関しては、一昨年、センター事業の一環として「喫煙・飲酒・薬物乱用防止指導研究委員会」が小・中・高各レベルの教育指導書を作成、教育現場に提供した。今回はさらに現場での教育に役立つ実用的な資料・教材の作成を目標に、前記委員会のサブシステムとして、①薬物乱用防止・パンフレット作成小委員会、②同一教育教材作成小委員会、③同一ホームページ作成小委員会が新設された。委員には、各主題の学識経験者、現場の活動家が委嘱され、本年度中の作成をめざして取り組んでいる。

第二の「学校環境」については、平成7年、学校環境衛生調査研究委員会が「健康的で快適な学校環境を目指して」を作成・配布し、学校環境衛生の基準の周知徹底に務めてきた。しかし、高度経済成長に伴う生活環境のリスクは、いろいろな面で顕在化し適切な対応が迫られており、それは学校環境も例外ではない。このような事態に対応して、新たな基準や対策を検討し、その情報を教育現場に提供するため、新規に「環境衛生推進委員会」を発足させることになった。また、とくに給食用食器等に使用されている有機化学物質についての情報の提供に限定して「内分泌かく乱物質情報提供小委員会」も設置され、すでに検討を開始している。

インターネットの推進。本会では、もう一つの主要事業として、教育現場に健康教育に関する資料を提供する「インターネット」事業の推進にも精力的に取り組んでいる。各種委員会の研究成果が教育現場に手軽に正確に伝達され、本会が名実ともに、健康教育センターとなることを目標に努力を蓄積していきたい。

もうひとつ、新規事業として位置づけられてはいないが、「学校における結核管理マニュアル」の改定が緊急の課題になった。「感染症は死なず」の標語どおり、新に発生したり（新興）、再び力を盛り返したり（再興）する感染症が、抗生物質の傘の下でやや安易に過ごしていた社会や医療関係者の心胆を寒からしめた。結核も再興感染症の代表として政府をして「緊急事態宣言」を発するまでになり、目下の社会情勢（経済の停滞、若者のライフスタイルの不規則化など）を背景に大きく憂慮されている。

学校保健では、これまで結核予防法に基づく国家的要請に応えて、ツベルクリン検査、BCG接種など予防活動に取り組んできたが、ここに来て、感染症新法に連動して幾つかの基準を改正する必要に迫られている。他方、結核健診が緩和された現状の中で、日常の健康観察による早期発見に対する期待が高まってきた。これらの状況をふまえて、早急に「管理基準マニュアル」を改定、年度内の学校現場への配布をめざすことになった。

充実に向かうブロック学校保健大会

学校が夏季休暇に入るとともに、学校保健の領域では、全国各ブロックおよび職域別の「研究大会」が踵（きびす）を接して開催される。日本学校保健会としては、微力ではあるが経済的に支援させていただくとともに、会長・副会長・専務理事等がそれぞれの大会に出席し、都道府県学校保健会との交流を通して相互理解、情報・要望の疎通に務めている。

今夏の率直な大会参加の感想は、「養護教諭の先生方のすぎまじい熱意に圧倒された」の一言に尽きる。数年前までは研究大会運営がやや儀式化・形骸化し、必ずしも、有用・有効の評価を得られない場合もあった。しかし、子どもたちの「こころの健康」をめぐる諸問題が噴出し、教育関係者の学校保健、とくに保健室活動への期待が高まるとともに、研究大会への取組む姿勢にも変化が起った。

たとえば、「健康教育の実践報告」においても、従来の成功談を顕示するような姿勢は陰をひそめ、実践過程での隘路や失敗事例なども含めた試行錯誤の実情を率直に披瀝し、参加者の評価と提言を求めるという取り組み方に変貌している。

もう一つ取り上げたいのは、大会のメイン・イベントとして企画される「特別講演」。最近の傾向としては、必ずしも演者の世俗的な高名に固執せず、ユニークな講師による斬新な講演が増え、聴く者に新たな視角や問題点を提供し、静かな感動を起こさせる。「よりよい大会」をめざす開催担当者の真摯な企画として、高く評価したい。

今年は、静かに座っていても汗がしたたる高温・高湿の夏、ご参加各位のご苦労に対し、感謝の意を表するとともに、来年度も「エバー・オンワード」の大会として、参加者を啓蒙し、感動させてくださることを衷心より期待して結びとする。

平成11年度全国養護教諭研究大会

神奈川県教育庁教育部保健体育課 山 田 澄 子

平成11年度全国養護教諭研究大会が、7月28日・29日の2日間、神奈川県横浜市において全国から2300余名の養護教諭や学校保健関係者の皆様を迎え盛大に開催されました。

全国養護教諭研究大会は、昭和55年に第1回開催以来神奈川県大会で20回を迎え、養護教諭の交流と日ごろの研究成果の発表の場として大きな役割を果たして参りました。

神奈川県大会は、『これからの時代に求められる養護教諭の役割』—生きる力をはぐくむ心と体の健康づくり—を主題に掲げて、記念講演・シンポジウム及び部会別研究協議を行いました。

第1日目

開会式の後全体会では、文部省三木とみ子教科調査官による『新たな時代における養護教諭の展望と課題』のシンポジウム基調講演があり、「これからの時代に求められる養護教諭の役割」として、従来からの役割はもとより、平成9年の保健体育審議会答申の中の新たな役割としての健康相談活動にふれ、養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かした心と体のケアや、医療機関や専門家等の連携や橋渡しの役目について提言をしました。さらに、教諭に兼職発令の上、体育、保健体育の保健学習の担当となれる法的措置や、新学習指導要領と養護教諭の役割についてふれ、21世紀へ向かい「自校の課題、自らの課題の確かな把握と実践の工夫、なお一層のアイデンティティーの確立」について提言されました。

シンポジウムでは、コーディネーターを大妻女子大学の高石昌弘教授がつとめ、シンポジストとして4名、学校医の立場から日本学校保健会本吉鼎三専務理事には養護教諭の活動領域の拡大と職務の確立の深化の必要性について、ユーモアたっぷりに、人間としての生涯研修、自己啓発について提言いただきました。

次に、行政の立場から、平川嘉則愛川町教育長は、教育を幅広くとらえた上で中央教育審議会答申の「不易」と「流行」にふれ、「臨床の知」を教育にどう具現化していくかを基礎体験、社会化、内面化という3つの視点で焦点化することについて述べ、養護教諭の基本姿勢の面からと、今後に向けて、人として、教育者として、健康をつかさどる専門職として、余人に変えがたい極めて貴重な職であるとの提言をいただきました。

養護教諭養成の立場で、杏林大学の出井美智子教授は、ヘルスプロモーションをめざして、生涯をみすえた健康教育が必要であるとし、そのための養護教諭の確かな判断力、



記念講演 五木寛之氏

企画力、調整力が求められることなど提言されました。

養護教諭の平川淑子先生は、養護教諭の立場から、学校教育の学校経営の中に養護教諭を位置づけ、養護教諭の職務を明確化し、養護教諭を柱として健康教育を推進してきたことを実践を通しての提言がなされました。

記念講演は、作家の五木寛之氏をお迎えし『こころの風景』の演題で現代人のこころの課題として、生きることや、命の重みについて、いろいろと示唆をいただきました。

第2日目、4部会10分科会にわかれて研究協議をいたしました。

第1部会は、「養護教諭の専門的知識、技能を生かした保健学習の進め方」について、宇都宮大学和唐正勝教授をコーディネーターに、6人のシンポジストからそれぞれの立場で提言をしていただきました。

第2部会は、「健康の現代的課題（生活習慣病、飲酒・喫煙・薬物乱用防止、性・エイズ等）について」校種別に発表・研究協議をしました。

第3部会は、「健康相談活動の進め方」について、校種別に発表・研究協議をしました。

第4部会は、「情報社会におけるコンピュータ等の活用の在り方」について、発表・研究協議しました。

学校保健の分野で実践と理論に裏づけされた豊かな経験をお持ちのシンポジストや講師をお迎えし、これからの養



護教諭の役割についての提言や、専門分野で講義や指導助言をいただきました。

また、全国各地からの研究発表に対し熱心に討議がなされ、これからの養護教諭の役割について示唆された、充実した実りある2日間を過ごすことができました。

学校における健康教育の果たす役割は大きく、養護教諭の専門性を生かした対応が期待されている今日、更に研鑽を積んで、本大会での成果を、各学校に戻りましたら、実践していただくことを期待しております。

最後に、本大会の開催にあたり、ご指導・ご協力いただきました文部省をはじめ関係の方々、大会役員の方々、また活発に意見交換頂きました参加者の一人一人にこころより感謝と、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

第50回十三大都市学校保健協議会

東京都医師会 理事 内 藤 裕 郎 記

第50回十三大都市学校保健協議会が平成11年5月6日、約千名の参加者のもと東京有明のビックサイトにおいて開催された。

協議主題「豊かな心と体を持ち21世紀へ飛躍する児童生徒を育む学校保健の推進」のもとに第1分科会から第4分科会までの課題別協議及び母子愛育会日本子ども家庭総合研究所平山宗宏所長による基調講演が行われたので報告する。

午前9時30分より各都市代表者会議が行われ次期開催都市は神戸市との決定をみた。

同10時より開会式が行われ、第50回十三大都市学校保健協議会実行委員長の東京都学校保健会長である佐々木健雄東京都医師会長より生涯を通じて健康で安全な生活を送ることができる児童生徒の育成を目指して、大都市における今後の学校保健のあり方を協議していきたいとの挨拶があり、その後東京都教育委員会中島元彦教育長の挨拶のあと10時30分より全体会議が開かれ第49回協議会（京都市）事後処理の報告、第50回協議会運営方法について説明ののち次期開催都市神戸市学校保健会近藤七郎会長より挨拶があった。

午前10時50分より基調講演があり昼食ののち課題別協議会が行われた。

基調講演要旨

「現代都市における学校保健」

社会福祉法人恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所長 平山宗宏氏

講演は平成4年に続き平成9年に東京都教育委員会で行われた児童生徒の健康状況のアンケート調査をもとに次の12項目の検討結果が報告された。

(1)健康状態・自覚症状：子ども達は「疲れている」「ストレスがたまっている」「アレルギー症状が多い」ストレス・マネジメントが重要。

(2)健康のため心がけていること、もっとも大切だと思うこと：「健康についての知識・意識は向上してきている」「ただしどれだけ実行できるかが問題」ヘルスプロモーションの考え方が大切。

(3)心配事・悩みについて：思春期の特徴を表している。カウンセラーの必要性が示されている。

(4)保健室について：学校では保健室でしかできないニーズが増えている。

(5)学習塾（家庭教師も含む）。

(6)テレビ・ビデオ・テレビゲーム：制限するのは困難だが、テレビゲームで遊びと現実の混乱が起こることが極

めて心配。

(7)運動・スポーツ：運動の時間が少ないのは心身の健康上問題。三つの間がない（時間・空間・仲間）。

(8)睡眠について：子どもの夜間生活化が進んでいる。是正は難しいが健康教育は必要。

(9)食生活：朝食や家族揃って食事をとるには家庭の協力が必要。食育の努力、子どものおやつは必要。

(10)学校生活：ゆとりある、楽しく通える学校への努力はさらに必要。

(11)家庭生活：家庭での心がけは向上したか？、ただししつけへの放任があると問題。

(12)健康診断の結果から：肥満児の増加が問題。

課題別協議会要旨

第1分科会〔健康教育〕

協議題—自主的な健康づくりを図る健康教育について（社会・環境の変化に対応した薬物乱用防止対策）

協議の視点—学校教育のあり方について

①学校教育での位置づけについて。②教職員の役割について。③家庭を含めた地域社会の役割について。薬物乱用防止についての学校、家庭、地域社会における対策について。④関係者の協力体制の確立について。

第2分科会〔保健管理〕

協議題—自主的な健康づくりを目指す保健管理について。

協議の視点—①自主的な健康管理の第1歩となる健康診断のあり方について。②健康診断の学校保健への位置づけについて。③CO・GOと保健管理および指導の推進について。④学校における環境衛生管理について。

第3分科会〔精神保健〕

協議題—社会・環境の変化に対応できる健康な心をもった子どもの育成

協議の視点—①心の健康問題の捉え方や対処法について。②心の健康相談活動の充実について。③学校における対応策（教育相談との位置づけと関連機関との連携について）。④社会・環境の変化と心の健康問題について

第4分科会〔地域保健〕

協議題—学校・家庭・地域社会との連携および学校保健と地域・職域保健との関連

協議の視点—①学校保健委員会について。②学校三師会の活動について。③学校・家庭・地域社会における相互協力について。④学校における防災教育と地域の連携について。

以上の活発な討議が行われた。

平成11年度全国学校保健主事研究協議会

日本学校保健会 専務理事 本 吉 鼎 三

新しい役割と資質の向上をめざして

全国学校保健主事会・日本学校保健会等が主催する第42回全国学校保健主事研究協議会が、平成11年8月9日、島根県教育委員会・同学校保健会の主催で、島根県立産業交流会館において開催された。

文部省・戸田芳雄教科調査官の「学校保健の今日の課題と保健主事の役割」と題する基調講演で始まり、次いで、川崎医科大学（岡山県）青木省三教授から「思春期—こころのいる場所」と題する記念講演があった。青木教授は、「子どもの成長過程では、勝つこと、あるいは完成することで自身に対する自信・自負を育てるとともに、ある程度の「負け」「挫折」を体験させておくことが、人格の形成にとって必要、不可欠である」ことを力説された。教授が名付けた「9勝6負け体験論」は、たいへん理解しやすく、聴く者に多大の感銘を与えた。

次いで全体会に入り、4名の保健主事の先生方からの研究発表があった。①健康生活習慣の定着化をめざして—立石和子養護教諭（長崎県・小）、②心

豊かで、たくましく生き抜く生徒の育成—坪崎和枝養護教諭（愛媛県・中）、③学校保健委員会の設置状況と今後の課題」橋本裕之教諭（石川県・高）、④ごみの分別収集・生徒保健委員会の活動を支えながら—松村壮一教諭（島根県・養護学校）。午後からは、前記の研究発表を主題に、小・中・高校・養護学校に別れて研究協議が行われた。

健康教育の推進・充実には、養護教諭はもちろん、教諭とくに保健主事の主導性が不可欠ことは改めて強調するまでもない。しかも、求められる保健教育は、日常の教科・特別活動・学級活動などの中に有機的に取り込まれ、児童・生徒の主体的な行動を育てるものでなくてはならない。4つの研究発表は、実践内容はそれぞれ異なっているが、保健教育と教科教育の一体化をめざし、児童・生徒の自発性を培おうとする点においては共通していた。このように、保健主事の先生方のご努力によって、保健教育が単なる知識の教授に終ることなく、全人教育の中に位置づけられることを期待してやまない。

虎の門 (50)

電子メール

必要にせまられ昨年からはe-mailをはじめた。ネット上でやりとりする手紙だから、安くて、早く、空いている時間に送っておけばよく、便利である。電話やファクシミリでも用はたせるが、多少の欠点はあってもメッセージのやりとりには、いまや欠かせない手段となった。一方ではメール機能を利

用した新しい仕組みに、情報交換や話し合いができるメーリングリストがある。登録された人がリストにメールを送ると登録者全員に配信され、それに対する返信も全員に配布されるが、中には直截的な意見のやりとりもあり、険しいものを感じた。人と人との対話に比べ、人と画面ではかなりの落差

があっても不思議ではないが、小学校でのコンピュータ教育が必須のいま、ここでも変わりゆく時代を覚える。メールの場合画面の向う側に人がいることを忘れないで欲しい。

（編集委員長 内藤昭三）

日本学校保健会事務局移転のご案内

このたび、虎ノ門2丁目タワーの落成に伴い、第19森ビルの仮事務所から、8月8日（日）に下記に移転しました。移転先は虎ノ門病院前、消防会館の手前です。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目3番17号

虎ノ門2丁目タワー6階

TEL(03)3501-0968・3785

FAX(03)3592-3898

北から南から

宮城県学校保健会だより

宮城県学校保健会副会長 横 山 義 正

先年（平成10年11月）第48回全国学校保健研究大会が宮城県の主管で開催され、全国から3千余の参加者をえて盛会に挙行された事は大きな感銘である。

同時に開催された第29回全国学校保健・学校医大会も750名の参加をえて、現在の学校保健の諸問題について討議された。

これらの事を受けて、どんな事業に取り組むかが今後の重要な事になる。まず第1は日本医師会認定学校医制についてだが、今般の日本医師会の調査によると宮城県では賛成が63%、反対が12%、その他23%で、かなり賛成者が増加してきた。第2は学校医協力医問題では宮城県医師会や郡市医師会に校医以外の各科協力医をプールし、そこから必要な専門医師を派遣できる体制を作っていきたい。第3は県内の養護教諭へのアンケート調査で気になった事だが、児童生徒と担任の先生や養護教諭、また校医、校長その他の担当者どうしの意志の疎通にスムーズさを欠いている。実にその連携こそ、学校保健会活動の最も重要な事であり、学校保健会の意義がある。また、学校保健委員会の活性化が叫ばれるところである。

最後に感染症新法に伴う学校伝染病については、宮城県としての出席停止期間や有病児の学校内生活まで踏み込んだ基準作りをしていく予定である。

山口県学校保健連合会の活動

山口県学校保健連合会事務局

山口県学校保健連合会は、現在、23の郡市学校保健会及び三師会や各校長会等、14の学校保健推進協力団体の協力を得て、調査研究事業、研修会等の開催、表彰事業や会報の発行等、学校保健の普及充実に努めている。

●11年度の活動指針

急激な社会環境の変化に伴い、近年、生活習慣病や心の健康問題等、様々な問題が山積している中、県学校保健連合会としては、各学校が学校保健委員会等を組織する中で、その活動が学校内のみならず、学校を中心に家庭、地域社会が一体となった健康づくり等を推進していくために支援していきたいと考えている。

1. 食中毒等予防対策

学校保健に携わる方々に十分な知識と理解をもって取り組めるよう努めていく。

2. 禁煙教育・薬物乱用防止教育の推進

禁煙活動とその対策等について調査したが、今後の指導に生かしていく。

3. 基本的な生活習慣の樹立

学校を中心に家庭、地域社会が連携した取り組みについて支援していく。

日本学校保健会だより

文部省体育局学校健康教育課人事異動（平成11年7月～）

○平成11年7月6日発令

横浜国立大学事務局長

(体育局主任体育官) 早 田 憲 治

体育局主任体育官

(高等教育局企画課長) 長谷川 裕 恭

学術国際局学術課長

(体育局学校健康教育課長) 佐々木 順 司

体育局学校健康教育課長

(初等中等教育局小学校課長) 徳 重 眞 光

文化庁

文化庁宗務課宗教法人室長

(体育局学校健康教育課健康教育企画室長) 大 木 宰 子

○平成11年7月15日発令

体育局学校健康教育課健康教育企画室長

(学術国際局国際企画課専門員) 大 場 淳

(フランス出張 OECD・科学技術産業局)

○平成11年9月1日発令

体育局体育課課長補佐

(体育局学校健康教育課課長補佐) 渡 辺 正 実

○平成11年9月6日発令

体育局学校健康教育課課長補佐

(生涯学習局生涯学習振興課調整係長) 田 村 卓 也

平成11年度「学校保健用品・図書等」推薦一覧表

推薦期間 平成11年4月1日～12年3月31日

No.	品 目	摘 要	会社名
1	カワイ肝油ドロップ	保健栄養剤	河合製菓（株）
2	イソジンうがい薬	口腔内及びのどの殺菌、消毒、洗浄、口臭の除去	明治製菓（株）
3	アルボース石鹸液	手指の殺菌、消毒、洗浄	（株）アルボース
4	シャボネット石鹸液	手指の殺菌消毒及び洗浄	サラヤ（株）
5	ヘマコンピスティックス	尿検査用試験紙	三共（株）
6	ライオンこどもハブラシ	歯刷子	ライオン（株）
7	プール用殺菌消毒剤「ハイライト」	プール用足腰洗槽用殺菌消毒剤	日産化学工業（株）
8	「プール用バイゲンラックス」	プール用水殺菌剤	（株）カズサ
9	トヨクロン H, G Ⅲ	プール向け殺菌、消毒剤	東ソー（株）
10	ネオクロール・ニュー S	プール用殺菌消毒剤	四国化成工業（株）
11	ベースサン トップ G	プール用殺菌消毒剤	多木化学（株）
12	サラヤ自動手指消毒器	手指の消毒	サラヤ（株）
13	コロロ自動うがい器	コップを使わずにウガイできる装置	サラヤ（株）
14	応急用酸素吸入器 O ₂ パック	呼吸困難時の応急用	ミドリ安全（株）
15	JES（呼吸・吸圧）シューズ	上履・体育館・グラウンド用	日本教育シューズ
16	デジタル粉じん計	教室等の空気清浄度の検査	日本カノマック株
17	風速・温湿度計	教室等の気流・温度・相対湿度の検査	日本カノマック株
18	ビデオ「もっと歯を大切にしよう！」	健康教育の教材…ビデオテープ	農山漁村文化協会
19	ビデオ「水と健康～子どもの水分補給」	健康増進の啓発ビデオ	（有）健康と料理社
20	16mm「みんなの健康」	水泳プール管理の映画	日産化学工業（株）
21	マンガ「元気を応援する水」のはなし	水分補給の重要性・補給法	（有）健康と料理社
22	書籍「心の家庭医学」	メンタルヘルスの家庭医学書	（株）保健同人社
23	マンガ「かしこく油を知ってヘルシークッキング」	天然油脂成分ジアシルグリセロールの働きやしくみ・調理方法	（有）健康と料理社
24	マンガ「こつこつ丈夫な骨づくり」（仮題）	親子で健康な骨の将来を考える本	（有）健康と料理社



学童の 集団検尿に、 エームス 尿検査試験紙。

エームス尿検査試験紙

ネフロスティックス®-L

体外診断用医薬品

輸入元：
バイエル メディカル株式会社
東京都渋谷区恵比寿1丁目19番15号

販売元：
三共株式会社
東京都中央区日本橋本町3丁目5番1号
JU1599-S

多人数のうがい励行に

コロコロ®自動うがい器

CO-SS型

- マイコンで機器内配管を自動洗浄
- うがい薬コロコロ®のB.I.B(Bag In Box)交換式を採用

お問い合わせは

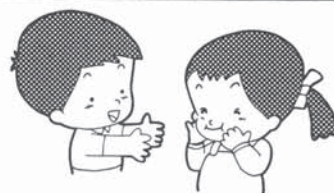
サラヤ株式会社 06(6797)2525 東京サラヤ株式会社 03(5461)8100



育ちざかりのひと粒!

目・歯・骨を大切に……

ゼリー状ドロップ剤



カワイ肝油ドロップ



河合製薬株式会社

東京都中野区中野6-3-5



アウトソール ミッドソール 中敷
(ラバー) (衝撃吸収材) (ラバー スポンジ)

三層式ソール

JES(呼吸・吸圧)シューズ

JESに学問を!

科学されたJES(吸圧)シューズ!



日本教育シューズ協議会

TEL(086)272-5463
FAX(086)273-9439

応急用酸素吸入器

オート

O₂パックA型

- 医療用具承認番号(62B)第519号(医家向および家庭向)
- 標準小売価格/9,800円(税別)

- 本体サイズ 径90mm×高さ250mm
- 本体重量 900g
- 使用時間 12分(1回限り使い捨て)
- 酸素流出量 3.0ℓ/分
- 酸素総流出量 36ℓ以上



緊急の呼吸困難に備える
学校の常備品です。

プール・運動時における
突然の呼吸困難時に――

〈カタログ御請求下さい〉



ミドリ安室株式会社

本社/東京都渋谷区広尾5-4-3 〒150-0012
電話/東京03(3449) 9 9 0 2
キューキューオート